

令和7年度学校自己評価システムシート(県立浦和工業高等学校)

目指す学校像	「技術・技能の基本を身につけた誠実な生徒の育成を目指す」 ～人間力を育成し、生涯にわたり社会に貢献できる人づくりの実現～
--------	---

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒の興味・関心を引き出すために授業を工夫・改善し、工業高校生に必要な基礎力を身につけさせる。 2 ルール・マナーを守り、規律ある高校生活を送る生徒を育成するとともに、生徒一人一人にきめ細かい生徒指導を行う。 3 積極的に資格取得を目指す生徒を育成するとともに、進路希望を実現させるためキャリア教育を充実させる。 4 生徒の活躍や工業高校の魅力を地域に発信するとともに、地域交流に積極的に取り組む生徒を育成する。
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標				年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習習慣の確立について、生徒からの回答では極めて高いレベルで定着している。 ・授業改善について、生徒の授業への積極性や保護者からのわかりやすい授業への評価は良好であった。また、生徒の主体的に授業に取り組む態度も定着している。 ・観点別評価について4年目を迎えて定着化が図られている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習習慣の確立について、生徒と保護者の意識のずれが大きかったため、定期考査や家庭学習に対する意識改善、保護者との連携に取り組む必要がある。 ・一人一台端末の活用も進んでいるが、活用事例や指導法を共有し学校全体として更に進める必要がある。 ・観点別評価や評価標準の改善を行うことはできた。課題を明確化しフィードバックを確実にに行い指導と評価の一体化をさらに進展させる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒アンケートの評価項目「基礎学力・技術技能の習得」「好き・楽しい・伸ばせる授業」「授業を積極的に取り組んでいる」「家庭学習の習慣、予習復習」「定期考査の取組」 ○保護者アンケートの評価項目「授業が分かりやすく丁寧」「家庭学習・定期考査の取組」 ○授業観察による評価項目「主体的・対話的な学びの推進」「ICTの活用が進んでいるか」「一人一台パソコンの使用状況」 ○その他の評価項目「教育情報の共有、授業研究」「観点別評価の定着」「評価法改善・指導と評価の一体化」 	<ul style="list-style-type: none"> ①学習習慣の確立 <ul style="list-style-type: none"> ・勉強方法の具体的かつ丁寧な指導を行う。 ・教材などをGoogleClassroomなどにアップロードし自宅からも活用できるようにする。 ・家庭との連携した教育情報の提供 ②授業改善 <ul style="list-style-type: none"> ・ICTを効果的に活用した授業改善 ・一人一台パソコンの積極的な利用 ・授業のアンケート、学習の振り返りの実施 ・授業研究、研究授業の推進 ③学習評価の改善 <ul style="list-style-type: none"> ・観点別評価の定着が図られている。 ・生徒へ適切なフィードバックがされている 	<p>令和7年度は各項目2～5ポイント程度の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 学習習慣の確立 生「基礎学力・技術技能の習得」(92%) 生「家庭学習の習慣、予習復習」(31%) 生「定期考査の取組」(63%) 保「家庭学習・定期考査の取組」(80%) 保 授業改善 生「好き・楽しい・伸ばせる授業」(86%) 生「授業を積極的に取り組んでいる」(80%) 生「主体的・対話的な学びの推進」(81%) 生「ICTの活用が進んでいるか」(82%) 保「授業が分かりやすく丁寧」(86%) 「一人一台パソコンの使用状況」 「教育情報の共有、授業研究」 ③学習評価の改善 <ul style="list-style-type: none"> 「観点別評価の定着」 「評価法改善・指導と評価の一体化」 	<p>学習習慣の確立、授業改善、学習評価の改善とも概ね達成できた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①「基礎学力・技術技能の習得」について生徒からの回答はほぼ横ばいで、高いレベルで達成できた。しかし「家庭学習・定期考査の取組」の保護者からの回答では29ポイントと低い評価で、生徒と共に評価が振るわなかった。 ②授業改善について、「好き・楽しい伸ばせる授業」「授業を積極的に取り組んでいる」は横ばいで、生徒の授業への積極性は高止まりの状態であった。保護者からの「わかりやすい授業」は低下したものの依然高い値であった。 ③観点別評価について4年目を迎えた。今年度は、教務より評価方法の確認も周知されており、教員間での情報共有ができた。また、1学期の評価の反省から、2学期以降は教科指導の改善も行われた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学習習慣の確立について、「家庭学習の習慣」に課題が残った。家庭学習の具体的な方法の提示や定期考査に対する意識改善、保護者との連携に取り組む必要がある。 ・「主体的に対話的な深い学び」及び「ICTを活用した興味・関心を高める授業」が増加し、生徒の学習意欲を高める指導が定着しつつある。一方で、一人一台端末の活用については改善の余地がある。先進的な学校や異校種の研究授業参加や様々な活用事例、指導法を共有し学校全体として更に進める必要がある。 ・1学期の評価から2学期以降の教科指導の改善を行うことができた。指導と評価の一体化をさらに進展させる必要がある。
2	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「遅刻・欠席・早退」「校則・交通ルール」「みだしなみ」について、意識する生徒が増えた。また、生徒の問題行動も減少している。 ・「SCやSSWの活用」について、養護教諭を中心に円滑に相談へつなげることができた。 ・SNSや不適切な発言による生徒間トラブルがあった。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・落ち着いた環境での授業への取組は、生徒と保護者で捉え方の開きがある。 ・生徒理解について、友人関係で悩む生徒が増えている状況から、学年を中心に生徒の小さな変化に気づき、耳を傾ける指導を継続する。 ・生徒指導部を中心にヘルメット着用を含めた交通事故の防止に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒アンケートの評価項目「遅刻・欠席、早退しない」「友人関係」「相談できる友達」「相談できる先生」「相手を思いやる気持ち」「落ち着いた環境での授業」「校則や交通ルールを守る」「服装や髪型に気を付けている」 ○保護者アンケートの評価項目「教員の生徒理解」「落ち着いた雰囲気での授業」「生徒の良好な人間関係」 ○その他の評価項目「自転車ヘルメットの着用状況」「登下校時の身だしなみ交通マナー」「SCやSSWの活用」 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒指導 <ul style="list-style-type: none"> ・授業中の巡回指導、授業観察等の実施 ・朝の校門指導、身だしなみ指導の徹底 ・交通安全教室の実施し、登下校時の自転車のマナーアップ指導の実施 ・スマホ安全利用教室の実施、講話でのスマホの適切な利用、いじめ防止を働きかける。 ②生徒理解 <ul style="list-style-type: none"> ・相談体制の拡充、課題のある生徒への気づき、SC、SSWや関係機関と接続する。 ・家庭との連絡体制の充実 	<p>令和7年度は各項目2～5ポイント程度の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 生徒指導 生「遅刻・欠席、早退しない」(85%) 生「校則や交通ルールを守る」(89%) 生「服装髪型に気を付けている」(80%) ② 生徒理解 生「友人関係」(80%) 生「相談できる友達」(77%) 生「相談できる先生」(74%) 生「相手を思いやる気持ち」(86%) 生「落ち着いた環境での授業」(56%) 保「落ち着いた雰囲気での授業」(86%) 保「教員の生徒理解」(83%) 保「生徒の良好な人間関係」(81%) 「SCやSSWの活用」 	<p>規律ある生徒の育成及びきめ細かい生徒指導は、ほぼ達成できた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①生徒指導に関する「遅刻・欠席・早退」「校則・交通ルール」「みだしなみ」については、高止まりであった。また、生徒の問題行動も激減している。落ち着いた学習環境の向上が図られた。 ②生徒理解について、「友人関係」で-3ポイントだが、「相談できる先生」が+7ポイントであった。「落ち着いた授業」では、生徒が+3ポイントに対し保護者が-24ポイントと大幅な変動があったが、生徒と保護者の達成状況の差が縮まった。保護者側からの「教員の生徒理解」や「生徒の良好な人間関係」は変わらず高評価であった。「SCやSSWの活用」も養護教諭や担任からの働きかけにより、円滑に相談へつなげることができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導について、各評価指標とも生徒の意識が向上している。自転車の交通事故は減少傾向にあるが、生徒指導部を中心に、自転車の交通違反の厳罰化の周知、交通マナーの徹底、交通事故防止を努める必要がある。 ・生徒理解について、友人関係で悩む生徒が増えている状況から、学年を中心に生徒の小さな変化に気づき、耳を傾ける指導が必要である。また、保護者への連絡やSC等との連携しながら、生徒一人一人が安心して登校できるような環境づくりを推進する。
3	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路について家庭での話し合いが充実しているなど、進路指導において、学校と家庭との連携を円滑に進めることができている。 ・資格や検定等の取り組みが充実している。 ・各工業組合と連携し資格取得へ向けての講習会を実施することができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・求人票が電子化され、家庭での求人票の閲覧が可能になり、家庭での話し合いが進んだ。今後、進路活動のDX化をさらに進めていく必要がある。 ・引き続き、コンテストや資格や検定の取り組みを推進し、自己有用感や自己肯定感を高める指導が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒アンケートの評価項目「進路説明会を役立てている」「進路関係の資料の整備」「企業選びのきめ細やかな指導」「進路指導の充実」「進路実現に向けての努力」 ○保護者アンケートの評価項目「進路説明会が役立っている」「進路についての家庭での話し合い」「専門科目を生かした就職」「上級学校への進学」 ○その他の評価項目「地元企業との連携が図れているか」「産業界と連携した技術講習が行われているか」 	<ul style="list-style-type: none"> ①進路活動の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・希望進路実現のため意欲をもって資格試験に取り組めるように指導する。 ・課題研究やコンテストの参加を積極的に行い課題解決能力や協働性を育む教育の実施。 ②資格や検定等の取り組みの充実 <ul style="list-style-type: none"> ・希望進路実現のため意欲をもって資格試験に取り組めるように指導する。 	<p>令和7年度は各項目2～5ポイント程度の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ①進路活動の充実 生「進路説明会を役立てている」(68%) 生「進路関係の資料の整備」(68%) 生「企業選びのきめ細やかな指導」(70%) 生「進路指導の充実」(71%) 保「進路実現に向けての努力」(77%) 保「進路説明会が役立っている」(69%) 保「進路についての家庭での話し合い」(81%) 保「専門科目を生かした就職」(77%) 保「上級学校への進学」(48%) ②資格や検定等の取り組みの充実 <ul style="list-style-type: none"> 「地元企業との連携が図れているか」 「産業界と連携した技術講習が行われているか」 	<p>進路希望を実現するためのキャリア教育の充実は、ほぼ達成できた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①生徒の回答は、すべての項目で昨年度と同程度であった。保護者からの回答では、「進路説明会が役立っている」が+15ポイント、「進路について家庭での話し合い」が、+7ポイントで昨年度を大きく上回った。進路指導について、学校と家庭との連携を円滑に進めることができた。 ②資格や検定等の取り組みの充実が図られた。「地元企業との連携が図れているか」と「産業界と連携した技術講習が行われているか」について、各工業組合と連携し資格取得へ向けての講習会を実施することができた。また、高度な資格取得に挑戦する生徒が増えた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学年や進路指導部との連携により、生徒個々の進路実現に向けて指導できた。生徒自身も自ら面接指導を依頼するなど、自発的な態度への変容が見られた。 ・求人票が電子化され、家庭での求人票の閲覧が可能になり、家庭での話し合いが進んだ。今後進路活動のDX化はさらに加速する。 ・各産業界と連携した講習会等を開催できた。生徒の進路指導や意識啓発につながる取組は、発展充実させる必要がある。 ・生徒会が資格取得の働きかけをしたことの意義は大きい、お互いが刺激し合い切磋琢磨することで、産業界の人材育成にもつながる。
4	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭との連絡を円滑に行うため、スマートフォンでの連絡アプリの活用が始まった。 ・地域連携では、土合公民館との取組、桜区民祭りへの参加など地域の方々と触れ合う貴重な機会である。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連絡アプリの活用が浸透しきれていないが、切り替えによるものと考えられる。学校全体として連絡アプリの活用をさらに進めていく必要がある。 ・浦和工業高校として最終年度となるが、今年度も積極的に地域連携を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒アンケートの評価項目「部活動の取組」「生徒会活動への協力」「体育祭や文化祭への取組」 ○保護者アンケートの評価項目「学校情報の公開」「工業高校としての特色」「学校行事への協力」「学校HPの閲覧」「連絡アプリの活用」 	<ul style="list-style-type: none"> ①学校と家庭との連絡体制の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・連絡アプリを積極的に利用する。 ・生徒の欠席連絡や行事への参加の有無は連絡アプリからとし、教員の働き方改革の一助とする。 ②学校の魅力の発信 <ul style="list-style-type: none"> ・文化祭を地域や地元企業に参加呼びかけ学校理解に努める。 ・学校の教育活動を積極的に発信する。 ・科学館や公民館と連携した体験教室を積極的に実施する。 ・生徒会誌「さくら草」を記念誌も兼ねた内容とする。 	<p>令和7年度は各項目2～5ポイント程度の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ①家庭との連絡体制の充実 保「学校情報の公開」(84%) 保「連絡アプリの活用」(91%) ②学校の魅力の発信 <ul style="list-style-type: none"> 生「部活動の取組」(45%) 生「生徒会活動への協力」(48%) 生「体育祭や文化祭への取組」(83%) 保「学校情報の公開」(84%) 保「工業高校としての特色」(90%) 保「学校行事への協力」(72%) 保「学校HPの閲覧」(75%) 	<p>学校の魅力発信と地域交流の取組は、概ね達成できた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①「学校情報の公開」での保護者回答は、12ポイント下回った。昨年と同程度でHPでの発信を行っているが、昨年度より一斉メールから連絡アプリに切り替えたことで、学校からの連絡や家庭からの欠席連絡の利便性は格段に向上した。そのため、学校HPの閲覧機会が減少したとも考えられる。また、連絡アプリは、学校全体として活用は進んでおり、アンケート等のペーパーレス化や教員の働き方改革にも好影響を与えている。 ②学校の魅力の発信は、「生徒会活動への協力」が3ポイント上昇するなど、学校行事等へ関心がやや高まった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校情報の公開」が近年HPからSNSへ移行しつつある。今後の学校情報の発信には閲覧型からSNSを使ったプッシュ型の発信への対応が必要となる。 ・連絡アプリは、欠席連絡だけでなく、学校行事の参加確認など、様々な活用が可能となった。ペーパーレス化や教職員の働き方改革へもつながるため、継続した取り組みを行う。 ・地域連携では、土合公民館との取組、桜区民祭りへの参加など地域の方々と触れ合う貴重な機会となった。また、イオンモールのイベントへの参加は生徒の研究成果の発表と教育活動の発信となった。今後も積極的に地域連携を進める。

令和6年度アンケート
 生：生徒アンケート
 保：保護者アンケート

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	2名
	生徒	6名
	事務局(教職員)	7名

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	令和8年2月20日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> ・観点別評価における「年間指導計画表及び観点別評価表」は、新校でも継続してほしい。また、教員の主観的な評価になりやすい評価方法について教務を中心に教員間で確認できたことは素晴らしい。 ・一人一台のタブレットによるICTの活用により教員の授業改善が進んでいる。 ・ICTツールは真を返せば楽をするツールにもなり注意が必要である。 ・「基礎学力・技能の習得」について昨年同様の高いレベルで達成できたことは、学校としての指導体制が整っている証である。 ・「家庭学習の習慣、予習復習」の生徒回答が31%となっているが、生徒自身が課題と認識していることの表れと捉えることができる。 ・「主体的な学び」こそ、これからの社会に求められる姿勢である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・規律ある生徒の育成ときめ細かい生徒指導の達成度、高校側の設定した数値にほぼ達成したことは素晴らしい指導の成果である。 ・あいさつ、身だしなみ、ルールの順守など、生徒が社会に出て最も根本的かつ大切な事柄である。これらを意識する生徒が増えたことはよい傾向である。 ・進路先の内定以降、遅刻数が目立ち始めたことは残念であるが、単に遅刻の数で判断するのではなく、その背景を汲み取ることが大切である。 ・「相談できる先生」が+7ポイントと有意に向上しているのは、教員の努力の成果と捉えられる。教育活動の基盤となる生徒と教員の信頼関係を築くことができる。 ・高校側の取り組みとして、生徒の小さな変化に気づく姿勢や生徒の声を傾聴していくとする高校の取り組みはアンケート結果からも理解できる。
<ul style="list-style-type: none"> ・求人票の電子化により、家庭で求人票が閲覧できるようになっていることは素晴らしい高校側の取り組みである。生徒の進路実現は、人生経験の豊かな保護者の意見を聞くためのツールとして求人票を閲覧しながら生徒と保護者との会話ができる。 ・「スーツ着こなし教室」は、今後、社会に出るにあたって、たいへん有意義なものであった。 ・資格取得は、努力の過程が大事であり取得の達成感等、大きな自信となり成長が見込める。さらに、実社会での大きな利点にもつながるため、今後もチャレンジしてほしい。 ・資格取得に生徒自身が働きかけをした取り組みは、高く評価できる。生徒自身が結果に対し責任を持つことも、高校生としての自覚を高め、浦和工業高校が社会に有益な人材を輩出する責任を果たすことになる。 ・地域の産業界や企業と連携した講習会は、生徒の進路意識の啓発に有効な取り組みである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・開かれた学校づくりは、生徒の保護者に対してまず行うべきである。その手段として学校からの一斉メールや連絡アプリを活用することで、保護者への連絡の利便性が増す。学校と保護者との双方向の情報伝達は学校側の開かれた学校づくりの工夫を感じる。 ・地域行事で浦和工業高校の生徒を見ることができた。工業の専門性を活かした内容に感ずる。地域の産業や文化を知ることには、キャリア教育の一環として意味のある活動である。 ・地域イベントへ参加した生徒は思い出に残る高校生活になる。 ・技能教育は日本経済にとって必要不可欠である。新校の評価を高めるよう取り組みや広報活動を通して、社会の激変期においても入学志願者が増えることを期待する。